

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お年寄り一人ひとりの生きる力を引き出す支援をする」をホームの理念としている	ホームの理念が独自に作られている。その基になる法人の理念には「地域の方々の安心・安全な自立生活の支援」が謳われており、法人としての介護方針も「ゆっくり、いっしょ、わがまま」と分りやすい言葉で示されている。職員は毎月月末に開催される定例会議でサービスを振り返り、理念に沿って実施されているかどうかお互いに確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々への挨拶を職員から率先して行うようにし、立ち寄っていただくようお願いをしている年末恒例の餅つきに近隣の方々にもお手伝いいただき、ついた餅を地区の方々々に配っている	入居者が住民の一員として地区のカラオケサークルや食事改善推進協議会、敬老会などに参加している。すぐ近くにある同じ法人のデイサービスとの共催の秋祭りに地域の住民を招き交流している。ボランティアの来訪も日常的にあり、今年度から近くの保育園園児との関わりも始まり、今後定例化していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、一昨年と地域の方を対象に認知症勉強会を行なった。今年度は、地区の方との日常会話の中で認知症の方への対応の仕方など、簡単な相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス外部評価の報告を行ない、委員の方々に意見を求め、サービス向上に活かすようにしている	会議は概ね三ヶ月に一回開催されている。家族代表、地区区長、民生委員、町役場担当職員、職員で構成されており、秋祭りや餅つきなどの行事も兼ね実施している。内容は事業計画や報告、意見交換、外部評価結果報告、ヒヤリハット事例報告等となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営面での相談等、必要に応じて適宜行なっている	町役場担当職員とは必要時に相談をしており、良好な関係が築かれている。上田地域広域連合の介護相談員2名の訪問が年3~4回あり、意見等を頂くことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員研修時において、身体拘束について学んでおり、具体的な行為の禁止について運営規程に記述されている	日中は玄関の鍵をかけていない。玄関のチャイムはあくまでも来訪者用であり自由に出入りできる。入居者の重度化はすすんでいるが、現在拘束を必要とするような方はいない。近所の人々とも顔なじみとなっており、離設の際に連絡を頂くなど協力的である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	意識はしているが、勉強会を持つまでは行っていない		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	形式的な話だけでないように、こちらから不安や疑問点を尋ねるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族親睦会を9月に行ない、また面会時など積極的に家族とコミュニケーションをはかり、意見などを頂くようにしている	今秋、二年ぶりに半数の家族が参加し家族会を開催した。同日に行われた同じ法人のデイサービスとの共催の秋祭りにも参加して頂き、色々な話を伺うことが出来た。家族の面会時にも意見等をお聞きし運営に活かしている。遠方の家族の方もお盆や正月に来訪し、その際に意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や年2回の人事考課、また適宜職員から意見を求めるなど提案しやすい雰囲気づくりを心掛け反映するようにしている	中旬に行われる法人の運営会議の後、月1回、ホームの職員会議が実施され意見交換をしている。日常的には朝の夜勤者から日勤者への引継ぎや夕方の全員ミーティングでコミュニケーションを図っている。管理者による個人面談も年2回行われており、職員の提案等を聞き入れる場も設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の活用や、給与規程の改定、育児休暇の取得など職員がいつまでも働きやすい条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の通年研修や申告制による外部研修への参加など職員に意識を持たせ積極的に参加させ、資格取得など目標を持って勉強するなど常に自分自身を向上させることを意識付けしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上小地域のグループホームで組織する相互評価事業に参加しており、サービスの質の向上に向けた取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	否定的な言葉を使わず傾聴し、施設見学の実施などにより不安なくサービスを利用していただけるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が何でも当施設を利用していただくのではなく、状況に応じて必要であれば、他サービスの利用を含め柔軟に対応できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事を一緒に行なうことで、食事作りにおいては教えていただく立場であり、仕事面においては職員から感謝の気持ちを表すようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的なコミュニケーションをはかり、忌憚のない意見を言っていただきこちらからもお願いをしたりと気持ちを一緒に出来るように心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の地域のサークル活動などへの参加を支援している。関係者とどのような場面で関わることで利用者がスムーズに参加できるか、話し合いを設けその都度対応に努めている。	地区のカラオケサークルや食事改善推進協議会、敬老会などへの参加を通じて馴染みの方との関係を継続・支援している。お盆やお墓参りなどで帰宅することもある。知人等も高齢化しており、家族以外の方の来訪は難しくなっている。体調不良や必要な買い物が生じた場合は家族等に電話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や日中過ごす場所など話が合う利用者が一緒にいられるよう配慮している。家事仕事についてもメンバーを考えながらお願いしている。		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応していく		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から話を聞き、表出されない部分については、観察による職員の気づきなどから希望、意向の把握に努めている。	法人の「利用者のニーズからのボトムアップ」という姿勢が貫かれている。開設以来の入居者も半数おり、この二年間ほど入居者の入れ替えもないので、声のトーンや観察から入居者の思いを推し量ることが出来ている。入居者のできる範囲での自立生活を支援しており、介護方針の「わがまま」は「我が、まま」の一人ひとりのペースでの生活を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや家族の面会時の話、利用者の生活の中での何気ない会話のなかからの情報を職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、個々のケース記録またアセスメント綴りに一日の様子や話した言葉、利用者の特別な出来事などを記録し、職員間で共有するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の職員間の話し合いや月1回のケース検討・モニタリングを行い、訪問看護ステーションとの相談内容も含め介護計画に反映させている	毎月の職員会議の際にケース検討・モニタリングを行っている。介護計画は三ヶ月あるいは六ヶ月で見直しを行っており、変更が生じた場合はその都度見直しをしている。計画作成に際しては居室担当者と計画作成担当者が相談し立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には日々の様子、気づき、介護計画に即した実践結果や利用者が話した言葉などを記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族旅行のための外泊や、家族の施設の宿泊など必要に応じて柔軟な対応えをしていきたい		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者1名が地域のサークル活動などに参加している。また、毎日の散歩に出掛けてくださるボランティアの方もおり、認知症と承知の上で継続して地域の方々が支えてくださっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を関係医療機関に本人および家族の同意のもとに移し、必要があれば主治医と家族の話し合いの機会を持つなど適切に対応できるようにしている	本人・家族の同意を得て殆ど協力医療機関への変更をしているが、入居前からの関係で開業医をかかりつけ医としている入居者もいる。訪問看護ステーションとの24時間の連絡体制が確保されている。協力医療機関での受診については職員が付添いもしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による訪問看護ステーションとの契約により、24時間体制で相談できる関係が築けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関および訪問看護ステーションが同じ事業体であるため連携が取りやすくなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少しレベルが落ちてきた時など早い段階で主治医と家族を含めた話し合いの機会を持つなど適切に対応できるようにしている	重度化対応及び看取りに関する指針があり、その都度、家族や医師と連絡や説明、相談をしながら対応している。お一人の方を2年前にお見送りをしたことがあり、仲の良かった入居者がお焼香にも参列した。入居者には動揺などは見られず、ありのままを受け入れられる強い姿を感じた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での訓練実施および職員全員が普通救命講習を修了している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に従い、年2回日中と夜間帯の避難訓練を実施している	消防署の協力の下、毎年秋と春、色々な想定をした避難訓練を実施している。過去にはホームの南側を流れる川の大水の危険にさらされ避難することもあった。AEDの備え付けはまだされていないが職員は訓練を受けている。自動火災報知器の導入も検討されている。居室入り口上部には自立歩行、車椅子、手を引くなどの緊急時の誘導方法が図示されている。	

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対して言葉がけは別々の対応をしている。ケース記録に関してはご家族のみに提示し、その他体調不良時など医療機関への情報提供に限っている	言葉がけは入居者個々に合わせたもので、入居者からの同じ問いに対しても気長に何回も対応しており、年長者への畏敬の姿勢が感じられた。排泄の失敗などについても自室に誘導し人目につかないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間など決まりの時間は設けずその方にあったペースで生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしていただけるように声がけをし、いつでも顔がきれいになっているように気に掛ける。以前から行っていた美容室にお連れしている。白髪染めを行なっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、片付けは開所以来一緒に行なっている。利用者と話をしながら献立を考える。できる方にお茶を入れていただいている	入居者が職員と共に調理や片付けを行っている。ホーム中庭で入居者が育てたミニトマトやナス、きゅうりなどの野菜が食卓に上ることもある。献立づくりはホームにある食材で考えており、誕生日には好きなものやケーキなど特別メニューとなることもある。食形態もミキサー食やおかゆ、トロミをつけたりと個別に対応している。栄養バランスについては法人の管理栄養士に相談している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態によってミキサー食やトロミをつけて対応している。また、水分量チェック表を使用し、水分摂取量が不足しないようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な利用者は、その方にあった形の歯ブラシやガーゼを使用している。自力で出来る方には声掛けを行なっている。義歯については定期的な洗浄を行なっている		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行きたいサインを職員が見逃さずにお連れするようにしている。その日の水分摂取量など職員同士の声の掛け合いも重要である	自立されている入居者と介助が必要な方が約半分ずつで居室にポータブルトイレを置いている方が2名ほどいる。排便を軟らかくする薬を服用したり、排泄パターンを把握し職員が時間で声がけ・誘導するなど、各入居者に合わせ対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と食事の内容にも注意し、軽い運動や腹部マッサージをおこなう。必要に応じて下剤を使用する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	寝る前に入りたいという方の要望にも応えている。拒否されても少し間をおいて様子を見ながら入っていただけるような声かけをしている	週2回以上入浴している。自立されている入居者が数名おり、職員2人で介助する方もいる。入浴は午後の時間帯が多い。ボランティアの方の付き添いで近くの温泉に行く入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠る前、利用者の希望により寝付くまで電気をつける。居室の温度、布団の重さなど気をつける。日中も状態を見て休んでいただく場合もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書(副作用についての記述あり)を保管し、職員が確認できるようにしている。必要に応じて訪問看護師に確認をとる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方のできる仕事を職員と一緒にできるよう声を掛ける。やっていただいたことなどどんな小さなことも感謝の気持ちを言葉で伝える		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物やドライブなど外に出る機会を多く持つようにしている。利用者と家族の旅行など積極的に支援している	同じ法人の運営する近くのデイサービスで定期的に行われる体重測定や日常の散歩で戸外に出かけている。自立歩行の方、車椅子の方それぞれ半数とやや重度化しつつあるが、シーズン毎に近くの名所旧跡へ車で出かけている。	

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で現金を管理している利用者があり、外出時にご自分の好きな食べ物などを購入している。職員が購入したものを把握するようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親類から荷物などが届いた際に本人にも話をしていただいている。「家に電話をしたい」とおっしゃる方にも電話をできるようにしている。年賀状など本人の言葉も書いていただく		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型であることから、施設に比べると生活感や季節感が自然に感じられる。テレビの音量などにも配慮している。	玄関には敷き台がおかれトイレも車椅子対応のスペースが確保されている。日中は利用者の殆どが食堂や居間で懐かしい唱歌を歌ったり、洗濯もの畳みやテレビを見たりしながら過ごしている。居間にはコタツやソファーが置かれ、以前の入居者の家族が制作した色刷りの版画が掛けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、座布団、こたつ、テーブルなど柔軟に対応できるスペースにするよう心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活用品などはご自身のものを自宅から持ってきていただくようにしている。家具なども持ち込みは原則自由である	殆どが畳の居室で、コタツ、テレビ、ベッドなどが持ち込まれている。冷暖房についてはエアコンが備え付けられている。お孫さんや家族の写真をテレビの上に置いたり、好きな図柄のカレンダーを張ったりと各入居者の個性が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの表示などその方に合わせた工夫をしている		